

リスクテイキング行動尺度の信頼性・妥当性の再検証

○森泉 慎吾^{1,2)} 白井 伸之介¹⁾

(¹⁾ 大阪大学大学院人間科学研究科 (²⁾ 日本学術振興会)

キーワード：リスクテイキング，尺度，信頼性，妥当性

【研究の目的】

森泉ら(2010)の作成したリスク傾向質問紙(RPQ)は、日常でのリスクの敢行傾向を、ギャンブル志向性(個人のギャンブル傾向)、状況的敢行性(状況に左右されるような場面でのリスク傾向)、確信的敢行性(状況に左右されない個人の一貫した信念が存在すると考えられる行動に対するリスク傾向)、安全性配慮(防犯や安全への配慮を伴う行動に対するリスク傾向)の4因子に分類する質問紙尺度である。RPQは、一定以上の信頼性・妥当性が示されているものの、尺度作成時や妥当性検証のための調査対象者の少なさが問題点として残されている。そこで本研究では、調査対象者を増やすことで、RPQのリスク傾向測定ツールとしての信頼性・妥当性を再検証することを目的として調査を実施した。

【方法】

調査対象者 1058名(男性764名, 女性289名, 不明5名)を調査対象とした。平均年齢は30.83歳($SD=13.67$)であった。回答者には学生以外の会社員等も多く含まれた(約48.8%)。

質問紙の構成 質問紙はRPQを構成する20項目とフェース項目によって構成され、各項目に対して5件法によって回答を求めた。フェース項目では、性別と年齢を尋ねた。また、妥当性検証のために、357名の大学生および大学院生(男性182名, 女性174名)に対しては、小塩(2001)の作成した大学生のリスクテイキング行動尺度(RTBS-U)、楠見(1992)の作成したリスク回避傾向尺度への回答を求めた。前者は4件法、後者は5件法にて評価された。

手続き 本調査は2008年6月から2011年3月にかけて実施された。質問紙は、大学の講義内や安全に関する講演会、会社内で実施される研修の場にて配布され、その場での回答、および回収された。なお、回答は無記名であり、匿名性が確保されることを予め教示した。

分析 RPQの因子構造・信頼性の再検証するために確認的因子分析を実施した。また、リスクテイキングと類似する概念を持つRTBS-Uおよびリスク回避傾向尺度とRPQとの相関関係を分析することにより、RPQの基準関連妥当性(併存的妥当性)を検証した。なお、いずれの尺度に関しても、下位尺度を構成する質問項目の評定値が高いほどよりリスクであるように逆転項目処理を行った。

【結果と考察】

因子構造と信頼性の再検証 有効回答として得られた1028名に対して、森泉ら(2010)と同様の手法にてプロマックス回転による因子分析(主因子法)を行った(Table 1)。因子数は、森泉らの研究を踏まえ4因子を想定した。分析の結果、負荷量の低さから3項目が削除されたものの、4因子の下位項目は森泉らと同じもので構成され、リスク傾向が4因子構造を持つことが確認された。4因子の信頼性を検証するために、因子ごとにCronbachの α 係数を算出したところ、ギャンブル志向性因子は $\alpha=.79$ 、状況的敢行性因子は $\alpha=.75$ 、確信的敢行性因子は $\alpha=.65$ 、安全性配慮因子は $\alpha=.52$ を示し、いずれも許容範囲であると考えられる。よって、RPQは4因子構造を持ち、各因子に関して一定以上の信頼性が示唆された。

妥当性の再検証 RPQの各因子とRTBS-Uおよびリスク回避傾向尺度の下位尺度との相関係数を算出した(Table 2)。RTBS-Uとの関連について、ギャンブル志向性、状況的敢行性、確信的敢行性因子はいずれもRTBS-Uの下位尺度と正の相関関係を示した。よって、以上3因子についてリスク傾向測定尺度としての妥当性が示唆された。また、安全性配慮因子については、「金銭に関するリスク志向」以外のリスク回避傾向尺度の下位尺度と有意な正の相関を示した。リスク回避傾向尺度および安全性配慮因子はいずれもリスク回避行動に関する尺度であり、この相関関係は安全性配慮因子の妥当性を示すものと考えられる。

以上より、本研究によってRPQはリスク傾向尺度として信頼性・妥当性のある質問紙尺度であると再確認された。

【引用文献】

- 小塩真司 2001 大学生用リスクテイキング行動尺度(RTBS-U)の作成 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要心理発達科学, 48, 257-265.
 楠見孝 1992 意思決定に及ぼす基準比率情報と個人のリスク志向の効果—医療場面における患者としての意思決定— 日本心理学会第56回大会発表論文集, 549.
 森泉慎吾・白井伸之介・中井宏 2010 リスクテイキング行動尺度作成の試み—信頼性・妥当性の検討— 労働科学, 86(3), 127-138.

Table 1 因子分析の結果(項目削除後)

	I	II	III	IV	共通性
I. ギャンブル志向性($\alpha=.79$)					
ギャンブルが好きだ	0.83	-0.08	0.01	0.06	0.68
もし自分の街にカジノがあつたら行ってみたい	0.71	0.09	-0.03	0.05	0.51
大金をギャンブルにつき込む人の気持ちが分かる	0.68	-0.09	0.06	-0.05	0.48
何事も「賭け」がないとつまらない	0.58	0.09	0.13	0.01	0.42
*ギャンブルは有害だと思う	-0.50	-0.02	0.21	0.09	0.25
II. 状況的敢行性($\alpha=.75$)					
歩行時、道路を斜め横断する	0.00	0.72	-0.04	0.00	0.49
歩行時、赤信号でも車が来なければ渡る	-0.04	0.70	-0.02	-0.03	0.48
歩行時、信号のないところで道路を横断する	0.01	0.64	-0.05	0.06	0.36
歩きながら携帯電話でメールをする	-0.01	0.54	0.04	-0.02	0.32
駆け込み乗車をする	0.02	0.53	0.06	0.03	0.31
夜、無点灯で自転車に乗る	0.03	0.33	0.12	-0.08	0.20
III. 確信的敢行性($\alpha=.65$)					
大事な約束を破る	-0.04	-0.08	0.63	0.00	0.35
仮病をよく使う	-0.04	0.08	0.63	0.04	0.43
会議など、重要度の高い決められた時間に遅刻する	-0.03	-0.03	0.63	0.01	0.37
IV. 安全性配慮($\alpha=.52$)					
*家を留守にする際は、火の元・戸締りなど安全確認を十分にす	0.04	-0.03	-0.01	0.65	0.44
*ほんの少しの間でも、留守になる場合は家の鍵をかける	-0.04	0.05	-0.01	0.59	0.34
*帰宅したら手洗い、またはうがいをする	-0.02	-0.01	0.00	0.39	0.16
因子相関行列					
ギャンブル志向性	-	0.142	0.238	-0.099	
状況的敢行性		-	0.539	-0.266	
確信的敢行性			-	-0.301	
安全性配慮				-	

Table 2 RPQとRTBS-U・リスク回避傾向尺度との相関係数

	RPQ			
	ギャンブル志向性	状況的敢行性	確信的敢行性	安全性配慮
RTBS-U				
個人的リスク行動	.39***	.30***	.21***	.09 [†]
社会的リスク行動	.30***	.52***	.56***	.13*
全項目	.44***	.52***	.50***	.13*
リスク回避質問紙				
生命に関するリスク回避	.02	.01	-.10 [†]	.38***
一般的な不安	.19***	.21***	.08	.28***
金銭に関するリスク志向	.55***	.22***	.25***	-.07
全項目	.34***	.20***	.07	.35***

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, [†] $p < .10$

(もりいずみ しんご・うすい しんのすけ)